



共に、会員の作品を掲載した「三〇
 会展記念彫刻会誌」を発刊してい
 る。また本宮町における地方展も
 年々盛会裏に継続開催されている。

福島県歌人会

事務局長 栗城永好

第三十二回福島県芸術祭が相双
 地区を中心に開催された。この芸
 術祭主催行事として、県歌人会で
 は、第四十一回福島県短歌祭を十
 月十七日、大熊町文化センターで
 開催した。講師に前現代歌人協会
 長近藤芳美氏を招くこともあつ

て、これまでにない四七三名の参
 加が予定され、地区短歌会では、佐
 藤祐禎実行委員長を中心に意欲的
 に準備が進められた。

福島県歌人会は、昭和二十七年、
 短歌文学の振興と県内歌人相互の
 研さん・親睦を深めるために、流
 派・結社を越えて結成された。会長
 に天野多津雄（当時高等学校長）、
 副会長長服部童村、事務局長阿久津
 善治の各氏と会員四十七名による
 スタートであった。

その後、本会は県歌壇の中核と
 なり、多くのリーダーたちの努力
 によって、数々の業績を重ね、四十
 年の輝かしい歴史を刻んでいる。

本会の主な事業の四つをご紹介します。
 しょう。

一つは、冒頭にあげた「県短歌
 祭」である。今年で四十一回を数
 え、年々参加者も増えている。毎
 年、中央歌壇トップクラスの歌人
 を招へいし、会員に限らず、広く県
 内短歌愛好者の参加を呼びかけて
 きた。会場は、県芸術祭の開催地区
 に従うこととして、県内各地を回
 っている。県文化振興基金の助成
 を受け、また、県知事賞をはじめ各
 関係機関、各報道機関より多数の
 賞をいただくなどして、盛大に開
 催してきた。

次は、「県短歌選集」の発刊であ

る。これは今年で四十巻となる。各
 会員一人十首、年間の佳作を自選
 出詠によるアンソロジーといえよ
 う。会員名簿その他、県内各地域の
 短歌会やそれらの短歌誌、また出
 版歌集・歌書等の紹介を掲載して、
 県内四十に及ぶ短歌グループの活
 動のようすや個人による出版活動
 のようすなどひと目で把握できる
 ように編集してある。これも県文
 化振興基金の助成にあずかっている。

三つめは、「県短歌賞」の設定に
 よる作品募集とその授賞である。
 今年で第十八回になった。未発表
 作品三十首を一編として応募し、
 毎年八月末日締切り、厳正な審査
 会を経て、一名が入賞となり、県短
 歌祭の席上で表彰されることにな
 る。今年は十六編の応募があり、す
 でに審査会が終わって、受賞者は
 石川郡平田村の瀬谷よしのさんの
 作品「農地解放」に決定した。県文
 学賞と並んで、本県の権威ある二
 大短歌賞の一つである。

四つめは、「会報」の発行である。
 これは、年四回発行する。今、一三
 二号の編集集中である。本会の活動
 状況はもちろん、会員個人の活動、
 また県内各地でのさまざまな活動
 状況の紹介、その他情報交換の場
 ともなつて興味深く、会の重要な
 広報機能を果たしている。

以上四つは、年中行事的であ
 るが、これ以外にさまざまなイベ
 ントが行われてきた。「県歌人三十
 年史」の刊行、新春座談会、短歌実
 作研修会の実施その他である。
 ここで、作品を紹介しよう。

平成三・四・五年度の県短歌賞
 受賞作品の中から各一首ずつを抜く。
 ・北北西の風の運べる明るさに栗
 の花房あをく揺れるる
 田中フミ子

・近眼鏡はづせる視野に桜草も柱
 時計も輪郭持たず
 佐々木勢津子

・夕つ陽に風吹きあぐるひととこ
 ろさざ波のごと鉾杉光る

